

# 徳島県地震

平成30(2018)年2月

## 目次

### 徳島県の地震活動

震央分布図・断面図	・・・1
概況	・・・1
徳島県で震度1以上の揺れを観測した地震の表	・・・2
震度分布図	・・・2

### 地震メモ

長期評価による地震発生確率値の更新について	・・・3
-----------------------	------

\* 「徳島県地震」は月1回発行し、徳島県及びその周辺の地震活動状況をお知らせするとともに、適宜、社会的に関心の高い地震について解説を行っています。また、「地震メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。

\* 本資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

\* 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

\* この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

\* 全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。  
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/bunyaq.html>

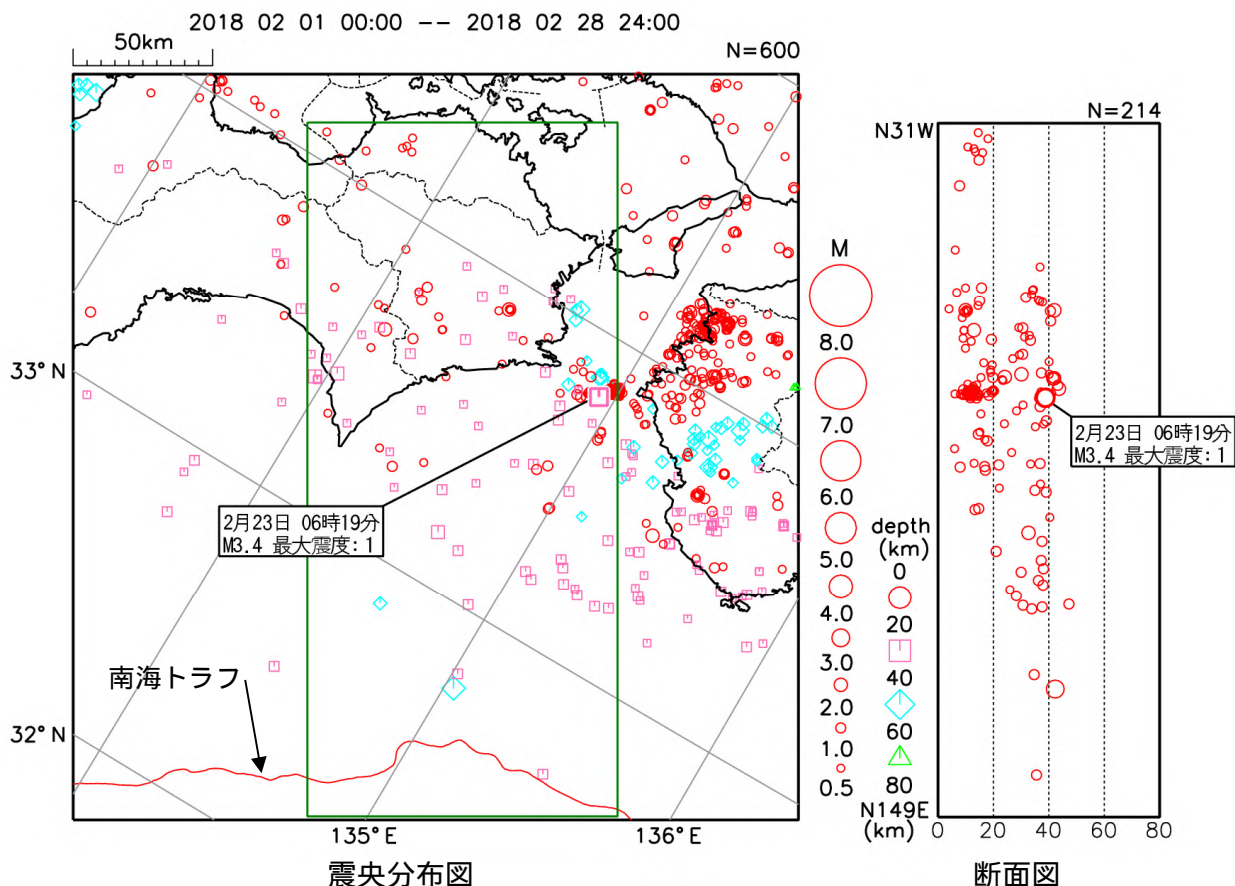
\* 大阪管区気象台管内（近畿、中国、四国地方）の地震活動は、大阪管区気象台ホームページに掲載の「管内地震活動図」、「週間地震概況」をご覧ください。  
<http://www.jma-net.go.jp/osaka/jishinkazan/kanindex.html>

## 徳島地方気象台

(<http://www.jma-net.go.jp/tokushima/>)

# 徳島県の地震活動

震央分布図・断面図 2018年2月1日～2018年2月28日



- ・ M0.5 以上の地震を表示。
- ・ 震央分布図中の緑色の長方形内の地震を北東側から見た断面図を右に表示。
- ・ 図に表示する震源は、凡例のとおりシンボルの大きさをマグニチュード (M) の大きさを、シンボルの形状と色で震源の深さ (震央分布図のみ) を区分。
- ・ 図中のコメントは、徳島県で震度 1 以上を観測した地震の発生日時・マグニチュード (M)、最大震度 (徳島県内の最大震度とは限りません)。

## 概況

2018年2月に徳島県で震度1以上を観測した地震は2回でした。震央分布図の範囲内でM2.0以上の地震は29回、断面図の範囲内でM2.0以上の地震は15回でした。

19日03時31分 豊後水道の地震 (震央分布図の範囲外: M5.0、深さ40km: M5.0、深さ39km) により、徳島市、三好市で震度1を観測しました。また、愛媛県、高知県、大分県で震度4を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度3~1を観測しました。この地震はフィリピン海プレート内で発生しました。なお、ほぼ同時刻に2回の地震が発生したため震度の分離ができず、震源要素を2個記載しています。

23日06時19分 紀伊水道の地震 (M3.4、深さ39km) により、徳島市、小松島市、阿南市、石井町、那賀町で震度1を観測しました。また、和歌山県で震度1を観測しました。この地震はフィリピン海プレート内で発生しました。

## 徳島県で震度1以上の揺れを観測した地震の表

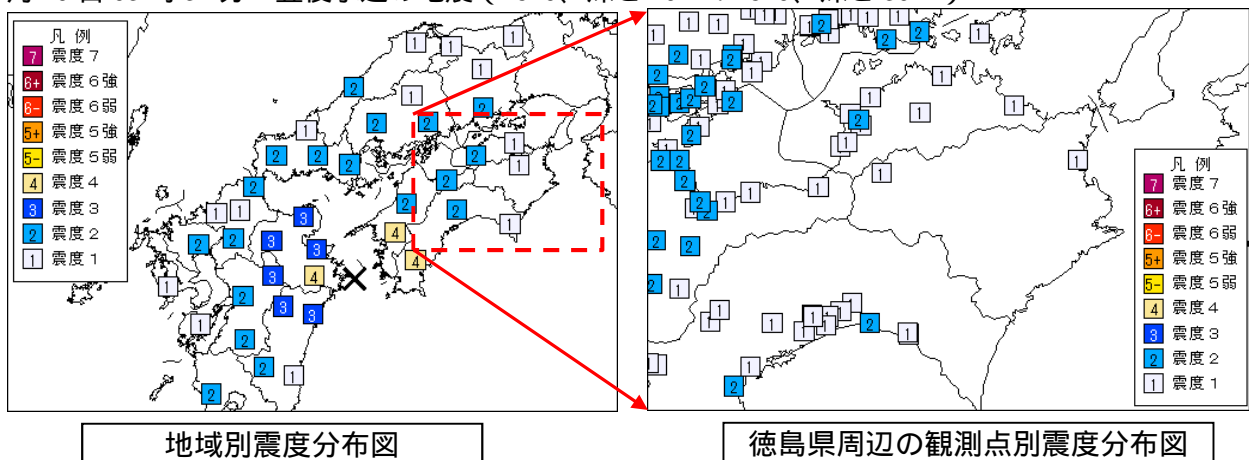
2018年2月1日～2018年2月28日

発震日(年月日時分)	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2018年02月19日03時31分	豊後水道	32° 54.2' N	132° 09.7' E	40km	M5.0
2018年02月19日03時31分	豊後水道	32° 53.5' N	132° 08.9' E	39km	M5.0
震度 1 : 徳島市大和町, 徳島三好市池田総合体育館					
2018年02月23日06時19分	紀伊水道	33° 48.5' N	134° 56.5' E	39km	M3.4
震度 1 : 徳島市大和町, 小松島市横須町*, 石井町高川原*, 阿南市富岡町, 那賀町和食*					

- ・ 震源要素(緯度・経度・深さ・マグニチュード)は暫定値。
- ・ 地点名の後に\*がついている地点は、気象庁以外の観測点。
- ・ 19日03時31分の豊後水道の地震は、ほぼ同時刻に2回の地震が発生したため震度の分離ができません。そのため、震源要素を2個記載しています。(「震度1以上の地震」は1回とします。)

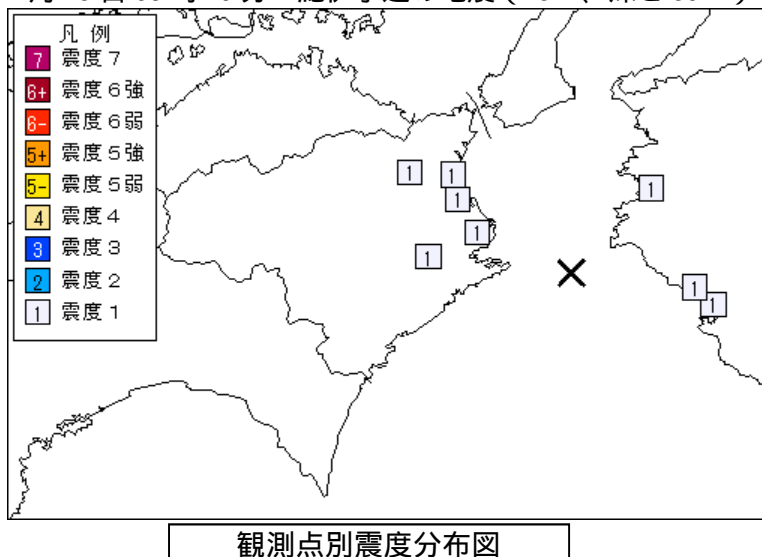
## 震度分布図(×印は震央)

2月19日03時31分 豊後水道の地震(M5.0、深さ40km : M5.0、深さ39km)



この地震はほぼ同時刻に2回の地震が発生したため、震度の分離ができません。そのため、震源要素を2個記載しています。

2月23日06時19分 紀伊水道の地震(M3.4、深さ39km)



## 【地震メモ】長期評価による地震発生確率値の更新について

地震調査研究推進本部地震調査委員会は、主要な活断層の地震および海溝型地震の長期評価を行っています。地震発生確率の算定には想定された地震が発生しない限り、発生確率が時間とともに増加するモデルが基本的に用いられています。このため、将来の地震発生確率の値は『いつの時点を基準として算定された発生確率であるか』が重要となります。

これまで地震調査委員会は平成 29 年（2017 年）1 月 1 日を基準日として算定された地震の発生確率値を公表していました（平成 29 年 1 月 13 日公表）が、算定基準日から 1 年が経過したことから、算定基準日を平成 30 年（2018 年）1 月 1 日として再計算された結果が 2 月 9 日に公表されました。

地震発生確率値の更新においては、時間の経過とともに確率値が増加するモデルを用いている全ての評価について、確率値の再計算が行われました。しかし、1 年という経過時間に対して、主要活断層の平均活動間隔は数千年程度と長いため、確率値の変化が小さく、計算結果の丸め（四捨五入）によって、これまでの表記と変わらない場合が多くなっています。

徳島県周辺の活断層の地震、及び、南海トラフの地震の発生確率のうち、表記に変更があったものは下表のとおりです。

表 地震発生確率の更新前後の比較

	期間等	2017 年 1 月 1 日時点 の評価	2018 年 1 月 1 日時点 の評価
中央構造線 (讃岐山脈南縁西部)	50 年	ほぼ 0% - 0.7%	ほぼ 0% - 0.8%
	300 年	0.009% - 20%	0.01% - 20%
中央構造線 (石鎚山脈北縁西部)	30 年	ほぼ 0% - 11%	ほぼ 0% - 12%
南海トラフ	経過率	0.81	0.82
	10 年	20% - 30%	30%程度
	20 年	50%程度	50%程度
	30 年	70%程度	70% - 80%
	40 年	80% - 90%	80% - 90%
	50 年	90%程度もしくはそれ以上	90%程度もしくはそれ以上
	100 年	90%程度以上	90%程度以上
300 年	90%程度以上	90%程度以上	

黄色の網掛けの部分が再計算の結果、表記に変更があったもの。

なお、長期評価による地震発生確率の更新の詳細は、地震調査研究推進本部ホームページをご覧ください。URL は以下のとおりです。

[https://www.jishin.go.jp/evaluation/long\\_term\\_evaluation/chousa\\_18feb\\_kakuritsu\\_index/](https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/chousa_18feb_kakuritsu_index/)